

児童朝会 校長の話 11月24日(1・2・3年生)

今日は、三代達也さんの話をします。

実は明日、浅草小学校に三代達也さんが来てくださいます。本当は1年生から6年生までみんなでお話を伺おうと思っていましたが、体育館に全校児童で集まると密になってしまうので、申し訳ありませんが今回は4・5・6年生だけで行うことにしました。残念ながら皆さんは話が聞けないので、私が講演会で話を聞いたり本を読んだりして知っている事をお話しします。

三代さんは世界中を旅しています。これはアフリカで撮られた写真です。虹がかかっていますね。



実は三代さんは車椅子で生活をしています。18歳の時に事故に遭い、下半身が自分では動かせなくなっていました。

12時間に及ぶ手術の後、医師に言われた言葉は「一生ベッドの上で生活する事になるでしょう。運がよければ、車椅子で生活できるかも知れません。」



それから地獄のような生活が始まりました。と言うのですから、苦しいリハビリだったんだと思います。そしてなんとか車椅子で生活できるようになり、東京で一人暮らしも始めました。

一人で電車に乗ったとき、こんなことがあったそうです。高校生のグループが乗ってきてニヤニヤこちらを見て写真を撮ってきました。そして電車が混んでくると車椅子の押し手のところが高校生に当たっていたようです。「なんだよこれ、痛ってえな」と言われ、傷つく言葉を言われまくりました。それ以来、外に出るのが怖くなり、ずっと引きこもる生活が

続きました。

そしてある日、普段はヘルパーさんが買い物をしてっていますが、頼み忘れた物があり、どうしても自分で買い物に行かなくてはならなくなりました。勇気を出して外に出てみましたが、街中の人の視線が痛く、見下されているように感じました。スーパーに着いたら、欲しい商品は手の届かない高い棚にあり、諦めかけていました。すると「これ欲しいの？」とおばさんが声をかけて、買い物かごに入れてくれました。スーパーの帰り道、来たときはまるで見える世界が別世界のように見えました。そして、家の玄関に着いてドアを開けた瞬間「よっしゃー！やったぜ！買い物しちゃったぜ！」と叫びました。それから、積極的に外に出られるようになりました。仕事にも就いて働き始めました。

夏休みに会社の同僚に「三代君、夏休みどうするの？海外旅行とか行ってみたら？」と言われました。いや無理でしょ。飛行機に乗ったことないし、英語は話せないし、外国人怖いし、海外のバリアフリーがどうなっているか分からないし、、、すると「ハワイならバリアフリー社会だし、日本語通じるって聞くけど？」と言われました。その言葉が心に残って、早速その日、仕事の帰りに旅行会社に寄ってみました。旅行会社のお兄さんに「僕は車椅子



で一人ですが、ハワイに行けますか？」と聞くと「もちろん、行けます！」と答えが返ってきました。そしてその場で航空券を買いました。そしてハワイを初め、それから、というもの、三代さんは世界を旅するようになりました。

イタリアでの話を紹介します。イタリアの町は石畳で、がたがた車椅子を走らせていると、いきなりガタッと車椅子が全く動かなくなっていました。見たら前の車輪が取れてし

まっています。車椅子がなかったら三代さんは動くことができません。あまりの衝撃に頭がパニックなり5秒間くらい気絶してしまいました。すると、一組の家族が近づいてきて「Trouble?」と聞かれました。車椅子を調べてくれると、お父さんがお母さんに「直す工具を探してきて!」子供たちに「ネジが落ちてるはずだから探してきて!」と指示しました。近づいてきたタクシーのお兄さんが「自転車屋はここから5分のところにあるよ」と教えてくれました。お母さんは工具を持ったスポーツ店のお兄さんを連れてきてくれました。そして子供たちは「ウオー」と声を挙げ、ネジが見つかったようです。お父さんとスポーツ店のお兄さんが修理して見事、直してくれました。三代さんが「ありがとう!」と言うと、歓声が上がりみんなでハイタッチしたそうです。みんなと別れて一人で車椅子を走らせながら、三代さんの頬には大粒の涙が流れていたそうです。

三代さんは本の後書きにこんな言葉を書いています。ハワイに伝わる言葉だそうです。



「No Rain, No Rainbow.」(雨が降るから 虹が架かるんだよ)

「辛かったこと、悲しかったこと。それは自分にとって必要な雨だった。数々の人との出会いによって大変さの何倍もの幸せが待っていた。」

三代さんは世界中一人旅を続け、そこで出会った人や出来事について、テレビやラジオ、講演会などで人に伝えています。

こんな素晴らしい人生を生きている人がいることを、皆さんも知っていてください。